

第2学年 道徳学習指導案

2組 計23人(男子12人, 女子11人)

指導者 坂元大輔

1 主 題 名 友達として, するべきこと (C 公正, 公平, 社会正義)

教材名「みんなとなかよく」(わたしたちの道徳 小学校1・2年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【第1学年及び第2学年】 自分の好き嫌いにとら われないで接すること
【第3学年及び第4学年】 誰に対しても分け隔て をせず, 公正, 公平な態度 で接すること
【第5学年及び第6学年】 誰に対しても差別する ことや偏見をもつこと なく, 公正, 公平な態度で 接し, 正義の実現に努める こと
【中学校】 正義と公平さを重んじ, 誰に対しても公平に接し, 差別や偏見のない社会の 実現に努めること

(2) 指導内容についての基本的な立場

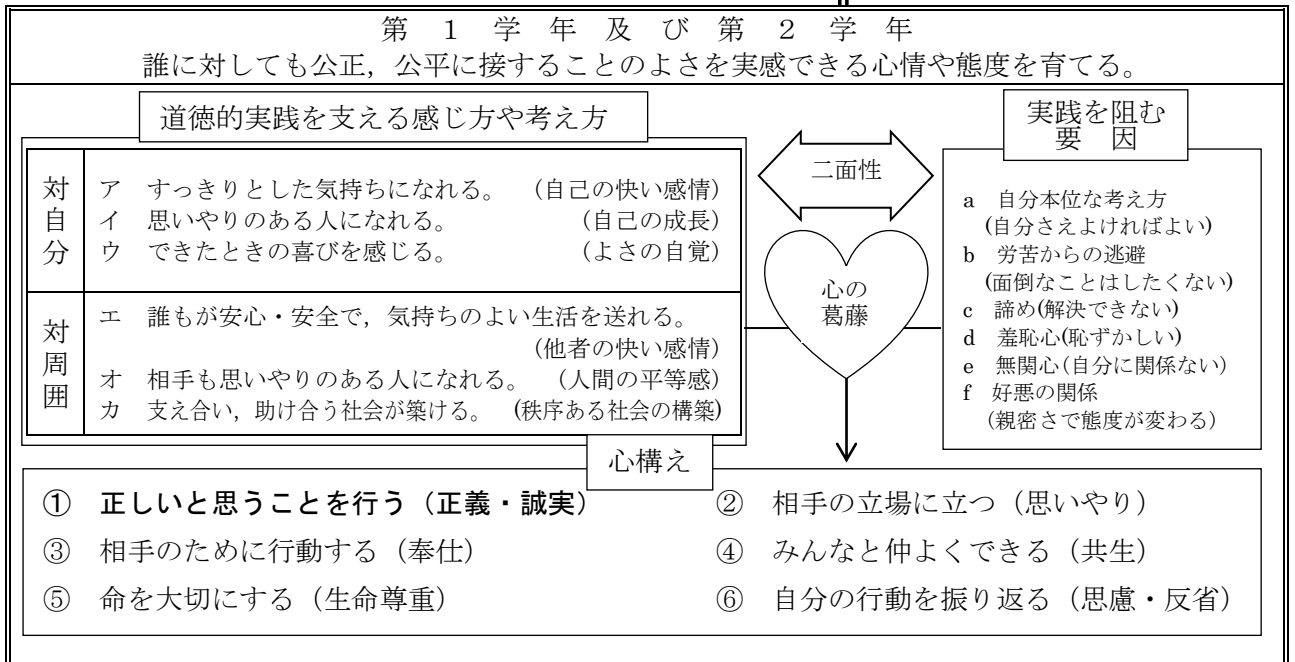
公正, 公平にすることは, 私心にとらわれず誰に対しても分け隔てなく接し, 偏ったものの見方・考え方を避けるように努めることである。また社会正義は, 人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。これを実現するためには, 社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高めて, 思いやりの心などを育むようにすることが基本になければならない。

しかしながら, 人間は, 自分と異なる考え方や感じ方, 多数ではない立場や意見に対し, 偏った見方や接し方をしてしまう弱さをもっており, そのことが起因していじめ等の問題が起こる場合も少なくない。

この期の子供たちは, 発達の特質から, 自己中心的な考え方をしがちであり, 自分の好みや利害等によって, とすると公平さを欠く言動をとる姿が見受けられる。

そこで本主題では, 公正, 公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げ, そのよさを考えさせるようにするとともに, 偏見や差別が背景にある言動については, 毅然とした態度で是正するといった誰に対しても公正, 公平に接することができる心情や, 態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(4) 全体計画（別葉）における本主題の位置付け

【全体計画（別葉）】

国語科「お手紙」（9月）：手紙のよさに気付いて、自分の思いを手紙に書く。
 生活科「つたわる広がるわたしの生活」（1月）：地域の人々と関わったことを振り返り、心に残った地域の出来事を身近な人々に伝え、進んで交流する。

【本時】

「友達として、すべきこと」〔C 公正、公平、社会正義〕
 『みんなとなかよく』 ※ 正しいと思うことを行う（正義・誠実）

【家庭や地域社会との関連】

道徳ファイル，学級・学年通信，教育相談，学級PTA，あいご会活動

3 子供の実態（調査日 平成 29 年 8 月 1 日 調査人数 23 人）

(1) 本主題に関する経験場面①

友達と仲よくできた経験	人数
・ いっしょに遊んでいるとき	16
・ けんかの後に仲直りしたとき	3
・ 給食のとき	2
・ 少年団の練習のとき	1
・ 給食当番を手伝ったとき	1

(2) 本主題に関する経験時の気持ち①

友達と仲よくできたときの気持ち	人数
・ うれしい	17
・ もっと仲よくなりたいと思う	2
・ 幸せだなと思う	2
・ 心がすっきりする	1
・ 心が明るくなる	1

(3) 本主題に関する経験場面②

友達と仲よくできなかった経験	人数
・ いやなことを言ったり、いやなことをしたりしたとき	9
・ いっしょに遊んでいるとき	6
・ 列に並ぶときに横取りをしたとき	4
・ 掃除で箒の取り合いになったとき	2
・ 先に遊ぶ約束をしていたが、他の子と遊ぶ約束をその後にしたとき	1
・ いっしょに帰っているとき	1

(4) 本主題に関する経験の理由②

友達と仲よくできなかった理由	人数
・ 相手が悪口を言ってきたから	7
・ 相手が悪いことをしてきたから	6
・ 自分の考えだけを言ったから	3
・ いじめた（いじめられた）から	2
・ 意見が合わなかったから	2
・ 自分の思いやりが足りなかったから	1
・ いらいらしていたから	1
・ 何となく	1

(5) 道徳的価値の意義

仲よくすると、どんないいことがあるか	人数
・ 自分がうれしくなる	10
・ たくさん遊べる	5
・ いい気持ちになる	2
・ 友達が増える	2
・ 楽しいことが起こる	2
・ みんなが笑う、みんなうれしくなる	2

(6) 道徳的価値に対する心構え

仲よくするためにどんな気持ちが必要か	人数
・ 優しい気持ち(心)	14
・ けんかしたら、謝る気持ち	4
・ 思いやりの気持ち	2
・ 自分だけでなく、相手のことも考える気持ち	2
・ 自分勝手なことをしない気持ち	1

(1)(3)からは、多くの子供が、日ごろ友達と仲よく生活を送っている反面、時々些細なトラブル等があり、仲よくできないときもあることが分かる。(2)(4)からは、多くの子供が、友達と仲よくできたことで快い気持ちを味わっているが、時々意見の衝突等で仲よくできず、相手の言動に腹を立てたことがあることも分かる。この期の子供は、他人の立場を認めたり、理解したりする能力も徐々に発達してきている。しかしながら、まだ幼児期の自己中心性が残っており、時として自分のことだけを優先してしまい、友達と調和を図ることができないことがある。(5)(6)からは、道徳的価値の意義やその心構えを、子供がある程度は理解していることが分かるが、対自分的な視点も多く、対周囲的な視点から道徳的価値について捉えられている子供は少ない。

そこで本時では、みんなと仲よく生活を送るために、自分だけが楽しい気持ちになって満足するのではなく、公正、公平な立場で関わることで、相手の気持ちも楽しくなることの喜びに気づき、公正、公平に接することのよさを実感できるようにする。

4 教材について

(1) 教材のあらすじ

前半2ページは、友達に対して、してよいことと、してはいけないことが4つの場面に表されている。後半2ページは、さるが多く動物たちによって仲間はずれにあい、悲しみにくれる場面が表されている。うさぎはそれに気付いていながらも、周囲の動物たちの同調圧力に流されてしまい、最後はうさぎ自身もさるを仲間はずれにしてしまう。

(2) 教材の分析・反応予想

	場面	分析(2-(3)より)	予想される子供の反応
主教材	1 うさぎを含め、動物たちが、同じ学級にいるさるのことを、仲間はずれにしている。 【心の弱さ】	a 自分本位な考え (自分さえよければいい) b 労苦からの逃避 (面倒なことはしたくない) c 諦め(解決できない) d 羞恥心(恥ずかしい) e 無関心(自分に関係ない) f 好悪の関係 (親密さで態度が変わる)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間はずれがおもしろい。 ・ 同じ目にはあいたくない。 ・ 助けると、自分まで仲間はずれにされる。 ・ 自分には助けられない。 ・ 助けるのが恥ずかしい。 ・ 自分には関係がない。 ・ さるはいじめられている側だから、自分もそうする。
副教材	2 友達ならいつも味方をしたり優しくしたりする。一方、友達でなければ、仲間に入れてあげない。 【道徳的実践を支える感じ方や考え方】 【心構え】	ア 自己の快い感情 ④ みんなと仲よくできる イ 自己の成長 ② 相手の立場に立つ ウ よさの自覚 ③ 相手のために行動する エ 他者の快い感情 オ 人間の平等感 ① 正しいと思うことを行う カ 秩序ある社会の構築 ④ みんなと仲よくできる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分だけでなく、みんなが楽しくなるとうれしい。 ・ 困っている人のことを考えて行動することができた。 ・ 正しいと思ったことを、きちんと伝えられた。 ・ 相手に喜んでもらった。 ・ 誰とでも同じように仲よくしたい。 ・ みんなで助け合いたい。

5 指導に当たって

(1) 対話を重視した「学び合い」【研究内容1】

ア 学年や学習内容に応じた対話を重視した「学び合い」の設定

「自分がうさぎだったら、どうすればよかったと思うか。」という問いを自分事として捉え、全体で解決方法を考えさせる。その際、低学年では考えを少人数グループで発表した後に、全体の場で発表することで、一人一人が問題を真摯に捉え、解決策を講じることができるようにする。

イ 子供同士で考えを広げたり深めたりするための手立て

役割演技や「磨き合い」の活動の場で、多様な考えを全体で引き出すことができるようにする。その際、教師の言葉掛けでさるの深い悲しみや自分がうさぎだったらどう行動すべきかを思考し、発表し合うことで、子供同士で考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(2) 学びの自覚を促し、次につながる学習指導の工夫【研究内容2】

ア 学びの自覚を促す手立て

本時の学びを基に、「深める」過程で具体的な生活場面を捉えて、してよいことと、してはいけないこと、それらの理由を考え話し合うことで、学びの自覚を促すことができるようにする。

イ 次につながる手立て

以前の道徳の時間に学んだことを「気付く」過程で振り返ることで、本時の学習につながるができるようにする。また主教材を通して学んだことを基に、副教材中のより具体的な生活場面を捉えることで、問題点を見付け、どのように行動することや考えることが大切か、よりよく実生活へ生かすための意欲付けができるようにする。

6 本 時

(1) **ねらい** 自他の不公平を許さず、誰に対しても分け隔てのない公正、公平な心情や態度を育てる。

(2) **展 開** 教師の言葉掛け 子供の反応 **重点評価項目** ☆ICT 活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
気 付 く (8)	<p>1 以前学習した「A 善悪の判断, 自律, 自由と責任」の授業等から, 正しいと思うことを勇気を出して実行する大切さについて振り返る。</p> <p>以前の学習を通して, 何を学んだり, 生かしたりしたいと考えましたか。</p> <p>相手のためになることは, 言いづらいことでも, 言えるようになりたい。</p> <p>いつでも, 誰にでも言うことができますか。</p> <p>いつでも言うのは, 難しいな。誰にでも言うのも, やっぱり難しいな。</p> <p>2 教材を視聴し, 何が問題かを見付ける。</p> <p>みんなでおさるさんを, 仲間はずれにしているよ。 うさぎさんも周りにつられて, 仲間はずれにしているよ。</p> <p>3 本時のめあてを立てる。</p> <p>いつでも, だれとでもなかよくするには, どんな気持ちが必要だろう。</p>	<p>☆ 既習内容を電子黒板に示すことで, 以前の学びについて振り返り, 道徳的な問いを自分事として受け止めることができるようにする。</p> <p>○ ワークシートに本時で考えたいことを自分の言葉で書き込むことで, 問いを明確に意識できるようにする。</p>
見 つ め る (10)	<p>4 「公正, 公平, 社会正義」に関わる生き方について話し合う。</p> <p>(1) ある日うさぎは, さるに元気を出してほしくて話し掛けたのに, 次の日さるに「一緒に遊ぼう」と話しかけられたときには, なぜ聞こえないふりをしたのか, 話し合う。</p> <p>みんなが, 仲間はずれにしているから, 自分もしてしまった。 味方をしたら, 自分も同じ目にあうのが, 怖かった。</p> <p>(2) うさぎ, さる, ライオン, その他の動物になって, 役割演技をし, 聞こえないふりをして, もやもやしたのはなぜか, 話し合う。</p> <p>自分までして, ごめんなさい。周りの人のことが気になって… いけないことだと分かっていたのに。このままでは…。</p>	<p>○ うさぎの立場に立ち, 行動の理由を考えることで, 心の弱さに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 役割演技をすることで, うさぎの葛藤する心情等に深く気付くことができるようにする。</p>
深 め る (15)	<p>(3) 自分がうさぎだったら, さるが悲しんでいるときにどうすればよかったと思うか, 考えを話し合う。【「学び合い」(磨き合い)】</p> <p>自分だけでも一緒に遊んで, おさるさんを元気づけるべき。 全員に仲間はずれにするわけを聞き, みんなで話し合うべき。</p> <p>したことを謝り, みんなのことは先生に言い, 注意してもらうべき。 ライオンさんやみんなに対して, 自分から注意するべき。</p> <p>5 本時を振り返り, 誰とでも仲よくするためには, どんな考えをもつことが大切か, 自分の考えをまとめる。</p> <p>・ かなしむ友だちの立場に立って, たすけようとする気持ちが大切。 ・ いつでもじぶんの正しいと思うことをしようとする気持ちが大切。</p>	<p>○ 再度うさぎの立場に立ち, 解決のためにできることを「磨き合い」で話し合うことで, 新たな見方・考え方に気付くことができるようにする。</p> <p>○ 自分事として考えてきたことをまとめ, 全体で交流することで, 道徳的価値の理解を深めることができるようにする。</p>
高 め る (12)	<p>6 教材にある生活場面について, してよいことと, してはいけないこと, その理由を考え, 話し合う。 【「学び合い」(認め合い)】</p> <p>仲よしだから何でも賛成してはいけないと思う。だって, どんな意見か中身をちゃんと考えて判断しないと, おかしいから。 仲がよい友達だからって, 給食を増やすのはいけないと思う。だって他の給食を増やしてほしい人たちに不公平になってしまうから。</p> <p>長縄が苦手だからといって, 仲間はずれにしてはいけないと思う。だって仲間はずれにされた人は, とても悲しい気持ちになると思うから。 列に並ばない人がいたら, 注意をしていいと思う。だってそれを許したら, ちゃんと並んでいるみんながいやな気持ちになると思うから。</p>	<p>○ 生活場面で具体的に考え, 話し合うことで, 学びを実生活につなぐことができるようにする。</p> <p>○ 公正, 公平にすることの必要性や, そのよさを交流することで, 今後の実践に向けての意欲を高めることができるようにする。</p> <p>◆ 公正・公平にすることの考えを整理し, 実践への意欲をもととしていくか。【発言, ワークシート】</p>

--	--	--

第2学年「友達として、すべきこと（C 公正、公平、社会正義）」における「学び合い」想定シート

「学び合い」の目的

公正、公平に生活するための考えを出し合い、誰に対しても分け隔てなく接し、周囲と仲よくしようとするよりよい見方・考え方に気づき、道徳的な心情や態度を育てることができるようにするため。

「学び合い」の方法

形態	グループ→全体	思考を可視化する手立て	板書、名前カード
----	---------	-------------	----------

「学び合い」で期待される子供の姿

強固	「公正、公平、社会正義」に関する考えを友達と伝え合うことで、自分の考えのよさを確認し、今後はよいと思ったことを進んで実行していきたいと考えることができる。
付加	「公正、公平、社会正義」に関する考えを友達と伝え合うことで、その理由や根拠、具体例から自分の考えに近いものに気付いたり、取り入れたりすることができる。
修正	「公正、公平、社会正義」に関する考えを友達と伝え合うことで、友達の考えを取り入れ、今後は自分がよいと思ったことを進んで実行していきたいと考えることができる。

「学び合い」の手順

磨き合い	① 互いの考えをグループや全体で交流後、自分の考えに近いものに名前カードを貼る。 ② 全体で自分の考えやその根拠、具体例を伝え合う中で、新たな見方・考え方に気付く。
認め合い	① 生活場面を捉え、公正、公平にするために大切な考えや、よさを全体で交流する。 ② 全体で自分の考えやその根拠、具体例を伝え合う中で、自分の考えをまとめる。

「学び合い」において育てたい見方・考え方

自分がうさぎだったらどうすべきか、立場を明確にしながら、理由等を議論し合う。【磨き合い】

〈子供の姿・教師の重点発問〉

自分がうさぎさんだったら、おさるさんが悲しんでいるときに、どうすればよかったと思いますか。【多様な考えを見いだす発問】

ぼくはおさるさんと一緒に遊んで、みんなには「仲間はずれはいけないよ。どうしてするの。」と注意をすべきだと思ったよ。

みんなに仲間はずれをするわけを聞いて、全員で話し合うべきよね。

私は自分で注意ができないと思ったときは、近くにいる先生たちなどの大人にお願いして、代わりに注意してもらおうかも。

ぼくは自分のしたことをおさるさんにちゃんと謝って、みんながおさるさんと仲よくするように、がんばってみるべきだと思う。

ぼくはみんなが分かってくれなくても、おさるさんの悲しい気持ちを考え、自分だけでもおさるさんを元気づけてあげたい。

自己との関わり

- 問題解決に向けた自分の考えを役割演技やこれまでの経験を基に考えている。

多面的・多角的な捉え

- 他者の考えを交えて議論することで、自分の考えを強固、付加、修正して、新たな見方・考え方に気付く。

誰とでも仲よくするために必要な考えを伝え合い、自分の考えをまとめ、実践意欲を高める。【認め合い】

〈子供の姿・教師の重点発問〉

誰とでも仲よくするためには、どんな考えが必要ですか。【主題に迫る発問】

仲がよい友達や、怖い友達とかにだけ優しくしないで、相手の立場に立って、誰に対しても同じように優しくしたいな。

みんなが間違っただけをしていたら、自分一人でも勇気を出して注意をして、悲しんでいる友達を助けたいな。

そうだね。いじめは絶対によくないと思うから、話し合いをして、みんなと一緒に解決できるようにしたい。

悲しむ人を見掛けたら相手の立場に立って考え、自分が正しいと思うことができたなら、誰とでも仲よくできそうですね。

自己との関わり

- 「磨き合い」での議論やこれまでの経験を生かして、実践意欲を高めている。

多面的・多角的な捉え

- 伝え合う中で、よりよい見方・考え方に気づき実行しようとする意欲をもつ。

